２８年前の１月１７日、私は宝塚市で長い一日を過ごしました

柏市風早南部高柳地区中島込自治会所属　髙橋由美子

その日の早朝、私は主人や子供たちと一緒に社宅の自分の布団で朝を迎えようとしていました。そして午前５時４６分に、寝ていた身体が恐ろしいまでに突き上げられ、揺さぶられるという今までに味わったことのない恐怖を体験しました。

阪神淡路大震災は未発見であった断層帯（以前のこの地での大きな地震はおよそ２千年前に発生）が動いたと云われています。〈上映資料①「未発見の活断層で起こる地震」PDF 資料を参照〉

私が住んでいた社宅の一室は、台所の食器が食器棚の中でぶつかり合って割れてしまいましたが、床への散乱はありませんでした。電子レンジが傾き、ダイニングのテレビが倒れるといったことはありましたが、それ以外は全く無事でした。咄嗟に子供たちは大丈夫？と頭をよぎりましたが、夫が私の身体を覆って私を守ってくれていました。

自宅の被害が最小限で済んだのは偶然ではなく必然でした。

前年に柏から夫の転勤でこの社宅に移り住んだ際、引っ越し業者に家具の固定をお願いしたのですが、その業者スタッフさんからは、「関西は大きな地震はないから不要だと思いますよ」といわれました。そのままほっておくのももったいないのでＬ字プレートを壁と家具につけてもらったのです。これが幸いし、家具は転倒せず大きな事故につながらなかったのです。他の棟では相当の被害や犠牲者が出たとのこともその後聞きました。〈上映資料④「仁川住宅間取り図」PDF 資料を参照〉

社宅のある土地自体は傾斜地の場所で、場所によっては大きな地滑りが発生、多くの犠牲者を出しました。あの時終日にわたって妙に土の匂いが鼻を衝いていたのは、この地滑りが原因であったと思います。

発災後、ライフラインのうち電気は復旧が早かったですが、水やガスはなかなか回復しませんでした。庭先に穴を掘って目隠しをしてトイレに使いました。〈上映資料⑤「仁川住宅敷地」PDF 資料参照〉

またお風呂はしばらくして自衛隊の支援風呂がありましたが。ご近所の目もあってあまり入りたくない気持ちもあり、少し遠かったのですが営業再開した銭湯に参りました。銭湯も中に入るまで長い順番待ちでしたが、お風呂があるのは本当にありがたかったです。小さいお子さんを抱いたお母さんがいて、その子を私たちが見ている間にゆっくり身体を

きれいに出来たことで、その方は本当に喜んでいました。

震災を体験した高校生の手記をご紹介します

〈上映資料⑥「蘇るあの日、あの時」を読み聞かせ：PDF 資料参照〉

私が体験した記憶と似た境遇を振り返る震災当時は７歳（小２）であった高校生の震災体験手記の文集が公表されており、この手記をこれよりご紹介します。

その子のご両親の実家では祖母が、自宅が倒壊（一階部分が潰れる）し逃げ遅れで亡くなられました。家だけでなく車や自転車も瓦礫の下敷きになっていました。祖父は咄嗟に屋外に退避できましたが、祖母は逃げきれなかったようです。階段の近くで倒れたらしく、あと数分、地震発生が遅れていたら祖母も助かっていたのではと思われました。危機一髪で助かった人、紙一重で命を落とした人。その差は何なのか、子供の時分には理解できませんでした。お父さん方の実家マンションは、あの高速道路が真横になぎ倒された現場地区でした。もし反対側に倒れていたらマンションはひとたまりもなかったそうです。コンビニに食べ物はほとんど残っていませんでしたが、それでも何か食べられる物を探す人だかりで、皆生きるために必死でした。

翌日以降もバタバタした生活の中、近所のオジサンが地域の被害情報や援助情報を伝えていました。それを聞いた母は、大変なのは自分達だけじゃないことを改めて知りました。今、西宮市の震災被災地には地滑り資料館（記念館）があり、地震や地滑りから命を守る対策につき学ぶことが出来ます。

真冬におきた大災害で、私たちは寒い季節での生活を余儀なくされました。早々と電気は復旧しましたが、食事はカップラーメンや乾パン、缶詰の毎日でした。その後乾パンはあまり食べていません。乾パンはおろか最近は保存食を蓄えることさえ疎かになりつつあります。振り返りがないと時間の経過とともに、震災体験や地震での出来事は忘れ去られていく事を実感しました。

比較的遠い武庫川河川敷の銭湯に母の自転車に乗せられて行った際は、銭湯も長蛇の列でした。私たちの並ぶところにいた、１～２歳の小さい子供を抱いたお母さんがいて、帰りに車で送ってあげると声をかけられました。本当にありがたかったと母は話していました。

数か月後、祖父は仮設住宅に移りました。仮設住宅の生活は静かでしたが、震災への苛立ちや不安で、住民間の喧嘩やトラブルが多かったそうです。中でも愛犬（ペット）絡みの騒音問題があり、ペットが遠く離れた場所で寂しそうに繋がれていました。

この手記の最後の一文、「繰り返される災害に立ち向かうため私たちが地震に備えるべきことは思っている以上に多いのである。一人ひとりの意識で災害の被害は変わることを忘れて欲しくない。」をご紹介します。

震災直後の宝塚市の動きは非常にスピーディであった。果たしで大規模災害直後に柏市に同じような対応ができるのでしょうか？

震災の９日後、１月２６日付の広報たからづか紙面抜粋を紹介。〈上映資料⑦「広報 特別号１月２６日」PDF 資料を参照〉多くの市民が知って欲しい最小限の情報を網羅しています。市の時系列での対応記録〈上映資料⑨「１震災ドキュメント」PDF 資料を参照〉をみても、とても予期せぬ未曽有鵜の災害直後でもしっかり役所の人たちは対応していることが、震災から一年目の宝塚市の震災ドキュメントという広報紙面よくわかります。大きな災害経験のない柏市行政に同じようなアクションが果たしてとれるのでしょうか？

災害時は情報が入ってこない。２８年前はネットや SNS が普及しておらず、テレビやラジオもない中で非常に心細い生活を強いられました。かろうじて電気はすぐに普及し、情報が入ってきたのは心強かったです。大切なのは情報や対応方法を市民にしっかり伝えることです。困っている人に「がんばれ」の言葉は逆効果です。頑張れないことで困っているのだから。「私にできることはありますか？What can I do for you?」や「大丈夫ですよ。私も手伝いますから。」の言葉が大切です。勇気が湧いてきて、子どもや家族のために生きようと考えるからです。

《追加補足》本講話中に紹介予定であった動画サイトをご案内します（講演会場がネット利用の環境になかったため講演時は動画の上映を省略しました）

❶「阪神淡路大震災　宝塚市」でネット検索すると

「阪神・淡路大震災の記録 - 宝塚市」と出てきます。（よく似たネーミングのものがありますが、このサイトが分かりやすいです）

https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/1013056/1013225/1011510/1001475/1001630.html

その中の「震災動画映像」の項目に ABC テレビ「阪神淡路大震災取材映像」一般公開（外部リンク）という URL が出ています。

「阪神淡路大震災 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ｜朝日放送グループホールディングス株式会社,朝日放送テレビ（asahi.co.jp)」

ABC テレビが動画を公開した主旨は「私たち ABC グループは当時取材した「阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」の一部を WEB サイトで公開することにしました。この貴重な映像を多くの人にご覧いただき、未来の「防災・減災」に活かしていただければ幸いです。また、この取り組みをきっかけに、自然災害に関する映像記録が広く社会に還元され、持続的な利活用が図られる世の中になればと考えています。」ということです。

貴重な映像が数多くあり、全部の映像はとても見きれませんが、本当に参考になります。これをすべての防災担当者に見てほしいです。

柏市に大規模災害があるとしたら津波で大きく破壊された東日本大震災より阪神淡路大震災のような火災や家屋倒壊、道路破断やライフラインの崩壊などが当てはまるのではな

いでしょうか。ですので、この映像は私たちの「防災・減災」にきっと役立つと思います。

また、「災害対策本部・震災復興本部」、「広報活動」、「語り継ぐ「阪神・淡路大震災」の記憶」の項目も大混乱の中、宝塚市が奮闘した様子が時系列的に読み取れます。そして、受験生に勉強室を開放したり、亡くなられた方に花を贈り続けたり、宝塚市のきめ細やかな対応にも感心します。

もちろん神戸市、芦屋市、西宮市なども震災の記録として市のホームページに記載がありますが、量が多いのか、混乱していて記録が残っていないのか、とても読み取りづらいです。いずれにしても悲しい経験をした地域が残してくれた記録や知恵や、あるいは失敗を生かさない選択肢はないです。

❷それからもう一つは「1995 年 阪神・淡路大震災 発生の瞬間とあの日の朝・(平成 7 年) 1 月 17 日～自然災害の記録～NHK 東日本大震災アーカイブス_files」で、この映像の始まりから 40 秒間の映像を見ていただく予定でした。コンビニなど酒瓶が落ちたりする映像はよく目にするのですが、部屋の中にキャビネットやタンスが無防備に置かれて、それが倒れると大きな地震では想像以上に激しく倒れるという映像は見たことがなかったのではないかと思い用意しました。

ここでは地震発生時、(ドンと落ちるような感じ。夫は持ち上がったと言っています。要するに縦揺れ) 男性が「何が起きたのか」と考えている様子。次の瞬間 (横揺れ)、キャビネット？が上に積んであったものと一緒に倒れます。(男性は逃げようとするが動けない状態で布団をかぶる。この倒れる勢いがすさまじいことを見てほしかったです。幸いにも男性の頭をかすっていました。) この勢いで倒れて、下にいる人に直撃したら、亡くなってもおかしくないです。

最後に…

私が住む中島込では自治会に入らない、自治会を脱退する世帯も少なくありません。私は、こうした住民には防災こそが地域で取組むべき大きな役割であり、存在意義であるとして訴えていく予定です。そのために目に見える形で防災活動を進めていくことを提案していこうと組織内に申していく予定です。住民やその子供たちが未来も安心して生活できる地域となるために。お話はこれで終了 (当日の所要時間は４５分)

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

上記文面に記載されている当日上映した各種資料はその添付を省略しています。
当該資料を一部でもご要望の場合は、「どの資料が欲しいかを明記」し、下記まで個別にメールで要請願います。 ☞ boux2@kazakita.org

聴講後の所感（風早北部地域ふるさと協議会防犯防災部長　古山博之）

あの日の大きな揺れは、当時東京に住んでいた自分の記憶にもある程度残っています。その後テレビ画面に映された神戸市内やその周辺地の惨劇は、東日本大震災の津波の情景と共に、脳裏からはなかなか離れません。都市型震災としては関東談震災以来となる大きな被災、そこから立ち直る市民の姿も力強く、自分も災害対策は疎かに出来ないことと改めて実感しました。

お話しの後半で触れられた、宝塚市との対比で柏市は予期せぬ大きな自然災害において、宝塚市のような迅速な対応ができますか？との問いに、私個人の意見ですが、柏市には「難しいのではないか」と率直に感じました。日頃の諸課題に対する防災行政遂行のスピードが足りないとの印象がぬぐえず、そのこと自体をもあまり問題視していない市職員の方々の姿勢にも、何か心もとなさを感じざるを得ません。そして、それを補うのは市民の力しかないと改めて感じました。

同（風早北部地域ふるさと協議会会長/塚崎区長　牧野好延）

非常に有意義な講話に感銘しました。今、柏市職員や市民に足りないのは、実際の大きな自然災害の体験であり、その対処の方法を十分に知っていないことです。その意味では、今回の体験談などをもっと知って欲しい対象者がたくさんいると思いました。

どうしても実体験がないことで、自分事として災害をとらえることが難しく、備えはこの程度でいいだろう、訓練をそこまでやらなくても…といった感情が先立ちます。主体性をもった行動、活動がなければ、災害本番には決して役立ちません。

柏市は今年秋、関東大震災から１００年のこのタイミングで、柏市民に防災訓練実施の呼び掛けを是非貫徹していただき、安全・安心な市民生活の維持、発展に寄与して欲しいと心から思っています。